

伊賀市社協 だより

令和6年12月1日発行

No.225
12月号



第15回 伊賀市障がい者スポーツ大会 (10/26 DMG モリアリーナにて)



特集

急速に変わる時代を生きる子どもたち
～社会で子どもを育てることの必要性～

いま、子どもたちを取り巻く環境は急速に変化しています。現代社会における家族構造の変化や非正規雇用の増加といった親世代の要因が、子どもたちの生活や学習環境にも影響を与えています。伊賀で育つ子どもたちが夢や希望をあきらめず、将来の選択肢を持てるようにするための取り組み状況をご紹介します。



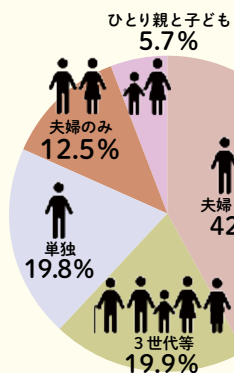
ふくだにのぞみ
福谷希
(くらし支援課 主任相談員)

Q 近年の子どもを取り巻く社会環境は、どのように変わってきたのでしょうか？

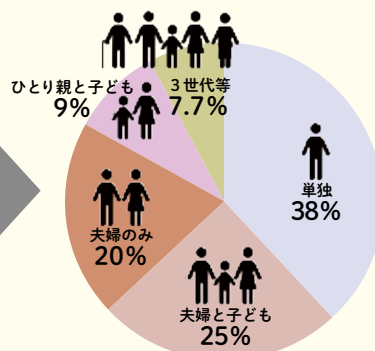
A 社会構造の変化と共に家族のあり方も大きく変わってきていると言えます。よくサザエさん一家が例として挙げられますが、1980年には三世帯同居世帯の割合が約50%を占めていました。しかし2020年にはその割合は9・4%と大幅に減少し、サザエさん一家のような世帯は非常に少数派となっています。一方で未婚率の上昇や、子どもや孫と同居しない高齢者の増加により、2020年には一人暮らし世帯が38・1%と日本で最も多い家族形態となっています。

家族の姿の変化

昭和55年(1980)年



令和2年(2020)年



内閣府 男女共同参画白書 令和4年版 家族の姿の変化をもとに作成

Q 家族形態の変化からどのような社会問題が生まれていますか？

A 以前のような三世帯同居の形では、家族内で働く人員が多く、世帯収入が安定している傾向がありました。しかし、非正規雇用の増加、離婚率の上昇などの他の要因もあいまって、世帯収入は減少しています。このため、年収200万円以下の世帯が増加し、全労働者の5人に1人が「働けども生活が苦しい」というワーキングプア(働く貧困層)の状態にあります。その中で、子育て世帯はさらに苦しい状況となっています。

2022年には全国の就学援助制度を利用する子どもの割合が14・42%となり、約7人に1人の子どもが学用品費などの援助を受けていることから分かります。家族形態の変化、家庭内における労働力や世帯収入減少などの結果、十分な支援や愛情を受けられない子どもや学力を高める環境に恵まれない子どもが増える事が懸念されます。

生活意識の状況(各種世帯の生活意識)

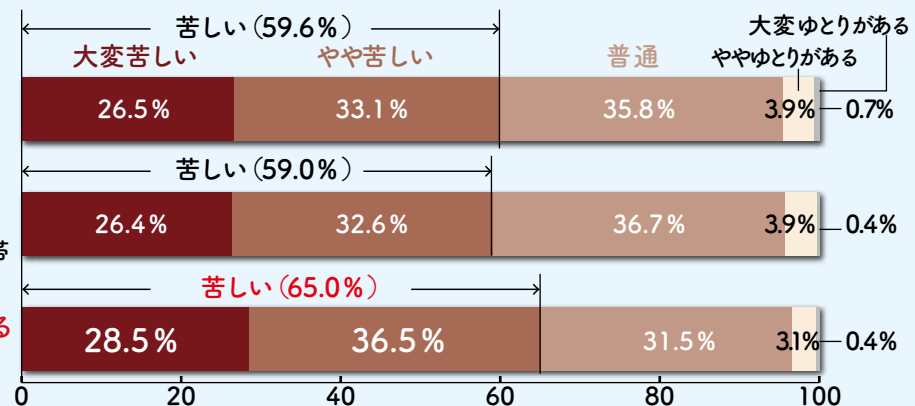
各種世帯状況を見ても、「児童のいる世帯」が苦しい状況がうかがえる



全世帯

高齢者世帯

児童のいる世帯



2023(令和5)年 国民生活基礎調査をもとに作成



Q 子育て環境や子どもたちの置かれている状況は？

A 世の中が色々変わり、子育ての負担が親だけにのしかかりがちで、子育てがしんどい、と声を上げにくく、子育てしにくい時代であると思うのです。ひとり親ならなおの事です。現代社会の中で、孤立や孤独な状況で子育てを行うことは、親にとって大きなストレスとなり、精神的な負担が増すことがあります。このような状況では、親が適切なサポートを受けられず余裕を失い、児童虐待やネグ

レクトといった深刻な問題が発生するリスクが高まります。すでに、危機的状況に陥っている家庭もあるかもしれません。

今、学校や家庭以外で子どもが安心して過ごせる居場所づくりが全国で始まっています。子育ての責任をそれぞれの家庭にだけ負わせるのではなく、もっと社会全体で担っていく方が良く、最近づくづく感じています。

Q 今始まっている、子どもの支援の取り組みは？

A 伊賀市社協では、地域食堂（子ども食堂）の立ち上げ支援や運営支援を行っています。伊賀市内で12か所の地域食堂がボランティア団体によって運営されるようになりました。また、令和6年9月より社協が運営する子ども第三の居場所「いがっこの家上野忍」の運営をスタートしました。ここでは、子どもたちが自己肯定感や自己効力を養えるような場所を提供しています。これは、伊賀市社協における、社会で子どもを育てる仕組みづくりの第一歩だと考えています。

他にも地域ではさまざまな取り



いがっこの家上野忍



10代の子どもの居場所 ふれんど Cafe



だーキッチン

組みが始まっています。ふれあい・いきいきサロンの一環として、月に2回開催される「10代の子どもの居場所ふれんどCafe」（上野中町）や、上野市駅前にある週4日開所のブックカフェ兼子ども食堂、自習室も併設している「だーキッチン」（新天地商店街）の開設と運営などもサポートしています。

Q 今後どのような取り組みをしていきますか？

A 伊賀市社協では、食事、教育、愛情、生活必需品、社会的体験など、多くの子どもには当たり前にあるべき環境が得られない子どもたちがいる現状を踏まえ、どのような環境に生まれ育っても、「全ての子どもが、食事や学習の機会、生活

必需品、愛情など『育つために当たり前に必要な環境』が得られる社会の実現」という目標を掲げて活動しています。社会問題に対する対処療法に留まらず、根本治療や予防となる活動も行い、貧困の連鎖を断ち切り、子どもが夢や希望をあきらめず、将来の選択肢の広がりにつながる活動を進めていきます。子どもの貧困問題の解決に挑戦している、全国の先進事例もご紹介し、みなさんと一緒に考えるフォーラムも企画していますので、ぜひご予定ください。

【予告】（仮題）我がまちの子どもの貧困対策フォーラム2024
令和7年2月24日（月・祝）13時
伊賀市文化会館さまざまホール
※詳細は、次号以降でお知らせします。

2023

2024

2025

2026

2027

「私の終活」

①任意後見と将来の不安とその背景

「終活」
ってなに？

人生の最期のときを意識しながら、これからの人生を自分らしく生きる準備をし、亡くなったあとに備えること
(日本FP協会)

今、「終活」に取り組む人が増えています。
相談に応じているスタッフに、その現状を聞きました。

Q. 伊賀地域福祉後見サポートセンターは、どのようなところですか？

(松岡) 伊賀地域福祉後見サポートセンターは、認知症や知的障がい、精神障がいなどにより、判断能力が低下している人を対象に、財産管理や契約手続きなどの面で支援する成年後見制度(法定後見制度)の利用を支援するセンターです。

また、将来判断能力が低下した場合に備えて、あらかじめ任意後見人を選んでおき、その人に財産管理や療養看護などの事務を委任する任意後見制度に関する相談もあ

ります。
そのほかにも、福祉後見人(市民後見人)の養成や、後見人等になられた人への相談支援なども行っています。

Q. 最近、将来への不安に対するご相談が増えていると聞きました。

(鷹尾) 最近の傾向として、頼れる親族がいない人や、親族がいても交流がほとんどなく、将来もし自分に何かがあった時に誰に頼ればよいか、という不安を抱えておられる人からのご相談が増えてきています。

おひとり暮らしの増加や家族関係が希薄化する社会の中で、親子やきょうだいには頼れても、甥や姪にまで迷惑をかけるわけにはと

感じる人は多く、いざという時に備え、元気なうちから準備をしておくことは重要です。生活を送るうえで、私たちは多くの手続きや契約を自分の意思のもと行っています。例えば、市役所や銀行の手続き、入院・入所の手続きや支払い、他にも家の管理など多岐に

わたります。認知症や精神疾患などにより判断能力が低下した場合、このような手続きを自分自身で行うことが難しくなるかもしれません。

すでに判断能力が不十分な人が利用することができる「法定後見制度」に対し、現在は判断能力に問題はなく、今は何でも自分で決められるけれども、将来が不安だという人が利用できる制度として「任意後見制度」をご紹介します。

また、自分が亡くなった後のお葬式やお墓のことであったり、さまざまな手続きについても併せてご相談される人が多いですね。

Q. 相談が増えてきている背景は？

(松岡) 「終活」がメディアなどでも取り上げられていることから、任意後見制度についての関心が高まっ

きていますという実感があります。先程の、自分が亡くな

事務手続きについては、「委任契約」といいますが、士や司法書士などの専門職契約を結んでおいて、相続

れば親族がするような手代わりに対応していただくことができます。地元の専門職

紹介した事例もあります。

Q. もしもの時の備えで、思うことは何ですか？

(鷹尾) 自分の希望や意思をおくことが大切だと思いつわゆる終活ですね。身寄りに不安に思う人は、死後契約や任意後見制度などの遺言の作成をしておくこと、意思を明確に残すことがで



次回は、「エンディングノート」につ

みんなですさえあうあったかい地域づくり

「歳末たすけあい募金」

募金期間
12月1日
▼
12月31日



自治会を通じてお願いにあがりますので、
一戸あたり350円
を目安にご協力をお願いします。
(目標額 6,600,000円)

歳末たすけあい募金 ってなあに？

「歳末たすけあい募金」は、共同募金運動の一環として地域住民やボランティア、民生委員児童委員、社会福祉施設、社会福祉協議会等の関係機関・団体の協力のもと、

- ✓ 年末や新年に行う地域の幅広い人々が参加する地域福祉活動
- ✓ 地域の福祉ニーズをもつ方（世帯）への支援
- ✓ たすけあいによるセーフティーネットの仕組みづくり などをすすめます。

令和6年度の「歳末たすけあい募金」は
このような事業に活用される予定です。

クリスマス会開催事業 70,000円

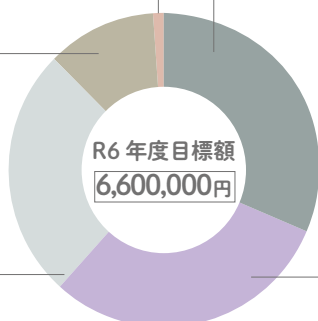
子育てサークルのクリスマス会開催を支援し、子育て世帯を応援します。

歳末食事サービス事業 750,000円

食事サービスを利用されている高齢者等に、年末年始に季節を感じられるお弁当をお届けしています。

世代間交流事業 1,700,000円

身近な地域での世代間交流事業を支援し、地域活性化と交流をすすめます。



福祉・防災啓発事業 2,080,000円

さまざまな社会問題をテーマとした福祉啓発のための福祉映画会を開催します。
また、緊急医療情報キット「わたしの安心シート」をより効果的に活用するため、市民に広く周知・啓発を行います。

歳末見舞品配布事業 2,000,000円

民生委員児童委員による年末年始の訪問活動で、見舞品を配布します。



歳末食事サービス事業



世代間交流事業



三重県共同募金会 伊賀市共同募金委員会

〒518-0829 伊賀市平野山之下380番地 5 伊賀市総合福祉会館1階 ☎0595-33-0064

ひきこもり支援フォーラム



ひきこもりサポート事業の一環として、ノートルダム清心女子大学人間生活学部人間生活学科 中井俊雄准教授をお招きして、ひきこもりの理解に関する市民講座を開催します。どなたでもご参加いただけますので、ぜひご参加ください。

【日時】令和7年1月12日(日)
午後1時30分から

【場所】ハイトピア伊賀5階

多目的大会議室1

【テーマ】「誰一人取り残さない」ひとりひとりにできることは？」

【参加費】無料

【連絡先・ひきこもりに関する相談窓口】

ひきこもりサポートnest(ネスト)

(伊賀市社会福祉協議会)

☎090-13483-12584

FAX 21-8123

ひとり親家庭交流会
参加者募集

伊賀市母子寡婦福祉会では、ひとり親家庭を励ますため交流会を開催します。日頃忙しいひとり親家庭の保護者の方も、ビンゴゲーム等楽しいひとときを過ごしませんか。

【日時】令和7年1月18日(土)

10時～12時

【場所】伊賀市総合福祉会館会議室

【参加費】500円(大人ののみ)

【申込・問い合わせ先】

参加希望の母子・父子家庭及び寡婦の方は、1月10日(金)までに、伊賀市母子寡婦福祉会 会長 茂山 久代(☎52-1660)までお申し込みください。



歳末たすけあい募金配分事業 福祉映画会



命ある時間は、なぜ同じではないのだろうか？
感動のヒューマン医療巨編、誕生。



現役医師による傑作医療小説、豪華キャストで映画化！まほろば診療所—そこは、命を少しだけ輝かせる場所…。金沢の小さな診療所を舞台に、“いのち”に優しく寄り添う医師と、避けることのできない死を迎える患者とその家族が、それぞれの立場から病と向き合い、葛藤し、成長してゆく。原作は現役医師・南杏子の同名小説で、医師だからこそ描写できる医療現場の臨場感、安楽死といったテーマに深く切り込む。

■監督・脚本／和島香太郎 ■出演：吉永小百合、松坂桃李、広瀬すず、南野陽子、柳葉敏郎、小池栄子 ほか

※鑑賞券

一般予約券 1,000 円以上の募金で1枚(当日1,300円以上)
小中高生予約券 800 円以上の募金で1枚(当日1,000円以上)

- 鑑賞券を希望の方は、申込受付フォームまたは、伊賀市社協か前田教育会までご連絡ください。
- 鑑賞券は、当日会場で引き換えます。
- (受付開始 11/1(金)10:00～ 予約券は事前予約のみ)
- 乗り合わせにご協力ください



申込フォーム

©2021「いのちの停車場」製作委員会

■と き／2025年1月12日(日)
13:30～(30分前から受付) 上映時間119分
字幕あり

■ところ／青山ホール

(伊賀市阿保 1411-1 ☎52-1109)

○主催／公益財団法人 前田教育会 ☎0595-24-5511

○共催／(福)伊賀市社会福祉協議会 ☎0595-33-0064

○後援／三重県共同募金会伊賀市共同募金委員会

伊賀市社会福祉法人連絡会 市民向けセミナー

今年度も、伊賀市社会福祉法人連絡会による市民向けセミナーが開催されます。今年のテーマは「災害」。今回は、令和6年1月に発生した能登地震で被害を受けた地域のひとつである、富山県氷見市の災害ボランティア・支えあいセンターの取り組みを聞く貴重な機会です。被災地でのように支援活動が行われ、復興に向けてどのような努力がされているのか、現場の声を直接お伝えいただきます。

地域の防災力を高め、万が一の際に迅速な支援体制を築くため、今一度、私たちの地域で何ができるかを一緒に考えてみましょう。ぜひご参加ください！

【日時】令和7年2月2日（日）
午後1時30分～（受付午後1時～）
【場所】伊賀市文化会館2楼ホール
【内容】災害について
【登壇者】氷見市社会福祉協議会ほか
※詳細は、次号でご案内します
【問い合わせ先】

伊賀市社会福祉法人連絡会事務局
☎21-5866

認知症サポーター養成講座 受講者募集



三重県社会福祉士会創設30周年記念の伊賀支部活動の一つとして、「認知症サポーター養成講座」を開催します。認知症に対する理解を深め、サポーターを増やすことで、誰もが安心して暮らせる地域づくりをめざします。あなたも認知症サポーターになってみませんか？この機会にぜひ、お気軽にご参加ください。



【日時】令和7年1月18日（土）
10時～11時30分
【場所】ゆめぼりすセンター
【内容】認知症サポーター養成講座
（講話・寸劇など）
【講師】キャラバン・メイト
【参加費】無料
※全員にオレンジリング（認知症サポーターの証）をお渡しします。
【申込締切】12月20日（金）
参加申込フォーム▼



【連絡先】三重県社会福祉士会伊賀支部
☎090-7304-2507

毎月の寄付者募集

1日33円からできるサポート



伊賀市社会福祉協議会
私たちは、地域社会を良くするために、制度の狭間となる課題解決に挑戦し続ける団体です。ぜひ、ご寄付という形で私たちの活動を支えてください。

【申込・お問い合わせ先】伊賀市社会福祉協議会
☎21-5866・FAX26-0002



生活の危機、人生の危機にある人や子どもたちを一人でも多く救うために、あなたも「毎月の寄付者」になりませんか。

広告募集中！

～サポステはあなたの働きたい気持ちに寄り添う場所～

あなたの想いを聴かせていただき、未来への道筋をいっしょに見つけます。

15～49歳までの「仕事に就きたい人とその家族」を応援！

サポステ ☎0595-22-0039
伊賀市上野丸之内500 ハイピア伊賀3階
いが若者サポートステーション 開所日/月～金 9:00～17:00（土・日・祝・年末年始休）

※就職相談・各種講座※
利用無料・要予約

12月 無料パソコン講座
時間 10:00～15:15

16日(月)	18日(水)	25日(水)
	23日(月)	

出張相談（ハローワーク伊賀）
12月17日 火
13:00～16:00

要予約

ご不要車買取ります

・年式の古い車
・乗らなくなった車

愛車の買取なら地元企業の
亀井商事

出張買取 査定費用 0円 買取手数料 0円

買取交付ダイヤル
0595-62-3131

株式会社 亀井商事
ジョイオートサービス 青山店
伊賀市青山羽根381-27

株式会社 亀井商事 高松所 愛媛214 https://www.k-kai.co.jp/

数字で見る伊賀市の福祉

令和6年9月末現在（前月比）

伊賀市の人口	▶ 84,936人（-96人）		
伊賀市の世帯数	▶ 40,610世帯（-14世帯）		
65歳以上高齢者数	▶ 28,970人（-14人）	高齢化率	▶ 34.1%（±0%）
75歳以上高齢者数	▶ 16,714人（+30人）	後期高齢化率	▶ 19.7%（+0.1%）
介護保険認定者数	▶ 6,216人（-17人）		

あなたのまちの
ふれあい・いきいきサロン

No.211



3B心愛（ここあ）

メンバー数／約10人

開催場所／円徳院 1154

開催頻度／月2回・月曜日

高齢になると、自分から何かを始めたり誰かを誘って活動したりするのが難しくなりがちです。そこで、地域みんなが集まれる場所を作り、そこで元気になってもらいたいという思いから、このサロンが立ち上がりました。代表の藤村さんは、現在民生委員児童委員も務めており、この構想について区長や社協にも相談して実現に至りました。開催場所には空き家を活用し、親しみやすく可愛らしい名前で「3B心愛（ここあ）」と名付けました。

サロンでは、地域の高齢者を中心に気軽に参加できる場所として、主に3B体操を通じて体を動かし、その後のおしゃべりや茶話会で心もリフレッシュしてもらうことを目指しています。10月にプレオープンを行った際には、男女合わせて10名もの参加者が集まり、予想以上の大盛況となりました。

藤村さんは、「これからも地域の多くの方にサロンに来ていただき、いつまでも元気に地域で暮らしていただける一つのきっかけになれば嬉しいです」と話しています。

我ら！ふくし
レンジャー

No.220



みつはし げんいち

三橋 源一さん（阿山在住）

●活動を始めたきっかけ

大阪でビル管理に従事しながら、防災アドバイザーとしても活動していました。忍者に興味があったことから、6年前に大阪から伊賀忍者の発祥地である伊賀市に移住しました。三重大学で『忍者・忍術学』の博士号を取得し、現在は農業を営みつつ、農泊を運営しています。

●活動内容

昔の人々の防災力に関心を持ち、過去の災害対応や忍者と防災の関連性を研究しています。例えば、忍者は暗くて狭い足場の悪い場所で活動することが多く、これは災害時にも共通点があります。災害時、ガラスが散乱した室内で安全に移動するための「忍び歩き」や、停電時の避難で玄関までの歩数を測る「歩測術」などが応用できます。忍者と防災の関連性や地域防災について、地域や学校で講演活動も行っています。

●今後の抱負

江戸時代の「安政伊賀地震」では、当時の人々が災害情報を迅速に整理し、復旧に結びつけたと伝えられています。自ら対策や仕組みを考えて生き抜いてきた昔の人々の災害対応から多くを学び、これらの防災術を伝えていきたいです。



表紙は、コロナ禍を経て5年ぶりに開催された、伊賀市障害者福祉連盟主催の「伊賀市障がい者スポーツ大会」の様子です。参加者とボランティアの約400人が、スタッフの約400人が集い、6つの競技で爽やかな汗を流し、笑顔溢れる交流の機会となりました。

編集後記

編集・発行

伊賀市社会福祉協議会

本部	〒518-0829 平野山之下380番地5 伊賀市総合福祉会館 1階 ☎0595(21)5866 / FAX0595(26)0002
上野	〒518-0829 平野山之下380番地5 伊賀市総合福祉会館 1階 ☎0595(21)1112 / FAX0595(21)8123
いがまち	〒518-1313 愛田 513 番地 いがまち保健福祉センター「愛の里」 ☎0595(45)1012 / FAX0595(45)1050
島ヶ原	〒519-1711 島ヶ原 4743 番地 島ヶ原福祉センター「清流」 ☎0595(59)3132 / FAX0595(59)3145
阿山	〒518-1313 馬場 1128 番地の1 阿山保健福祉センター ☎0595(43)1854 / FAX0595(43)1577
大山田	〒518-1422 平田 656 番地の1 大山田福祉センター ☎0595(47)0780 / FAX0595(46)1165
青山	〒518-0226 阿保 1988 の1 番地 青山福祉センター ☎0595(52)2999 / FAX0595(52)3555